介護老人保健施設しおさい

栄養科(調理師)　松谷　弘一

功　　績　入所ご利用者とおやつ作りを企画、実践し、楽しみの提供・作ることの喜びを感じ、ご利用者の輝きの日々に繋げるサービスの提供を実施した。

推　薦　者　栄養科　　算用子　美登里

推 薦 理 由　ミールラウンドでのふとしたご利用者の一言から、おやつ作りを実践し、他部署と協力し合い、実施する内容をご利用者と一緒に相談し、継続して実施していることで、喜びの声も多く聞かれております。ご利用者の輝きの日々に繋げていくサービスを提供していると感じられた松谷さんを理事長賞に推薦いたします。

内　容

入所では、立て続けに家庭の事情や身体的な事情で昨年から離職が相次ぎ、なかなか入職者がいない中、食の質を下げないよう、他部署の協力を仰ぎながら効率的なオペレーションに改善するなど、日々奮闘している状況です。そのような日々の業務を行っている中、入所の3階にミールラウンドを行っていた際、一人のご利用者より日々の催し物やイベント食の印象が残っており、とても良かったとのことを会話され、「私たちも作ってみたいな。」との声を直接聞くことがありました。その時のご利用者の表情や言葉などを聞いた松谷さんは、現状栄養部門だけでなく、入所介護部門もマンパワー不足の中ではありますが、入所でおやつ作りを実施することはできないかと考え、部門長、入所部門スタッフと相談し、開催してみる方向で進めていきました。

松谷自身は昨年に調理師の資格取得をして勤務しており、自分でも何かできることはないかと考えていた際のミールラウンドでの直接の言葉を聞いたことで、この思いを実現してあげたいと他部署とも協力して計画に至りました。松谷さんが主体となり、実施していくことは今までなく、不安もあったと思いますが、まずは簡単なものから始め、実施するまでの流れやご利用者の反応、リスクなどを介護や看護スタッフとともに観察していきながら、徐々にご利用者の元気だったころに日常的にしていたような日々の生活を、少しでもしおいさいで取り戻して元気に過ごしていただきたい一心でおやつ作りを実践してきました。

今では、ミールラウンドするとご利用者より「今度は何作るの?」など記憶にもしっかり残っており、日常生活の中での楽しみの一環となっております。おやつ作りとはいえ、ご利用者には、昔を思い出しながら調理をすることでの実践的な回想療養の役割となり、日ごろ動かさない機能を使うため、機能訓練の要素や認知症予防の効果も見られます。

厳しい情勢やマンパワーにも課題がある中、困難な状況を知恵と工夫で、ご利用者に輝きの一日を提供してくれ、ご利用者の食を支えるサービスの持続性を考えた素晴らしい姿だと私は尊敬します。